

平成28年度流山市民活動団体  
公益事業補助金  
協働まちづくり事業成果報告書

平成29年4月26日

協働まちづくり提案調整会議

## 平成28年度市民活動団体公益事業補助金認定事業 事業実施団体一覧

	事業名	団体名	【目的】・概要	補助確定額	担当課
1	流山の公園、田畑や森で子ども達が冒険し健全に育つことを支援する事業	ヒミツキチ	<b>【子どもの健全育成】</b> 子ども達が安全に自由に自分たちのアイディアとスタイルで遊び、発見や創造する喜びを味わえる場を創出する。また、子どもにとっての遊びの重要性や遊びに潜む危険の種類とその対処法について保護者向けワークショップを開催し、遊びへの理解を深め、遊びを通じて健やかに育つ環境づくりを家庭で実践してもらう。 (新規事業)	0 ※収入の拡大と支出の削減が行われたため、申請時より補助金額が減額し0となった。	コミュニティ課 ・子どもの情操教育(学校関連)・青少年育成(生涯学習関連)及び活動場所(公園・支援センター)等、関連する部課が広範囲にわたるため。 ※ 申請初年度の事業計画及び事業実施状況を勘案し、担当課を設定するまでの間、コミュニティ課を担当課とする。
2	流山本町・利根運河観光ツーリズムに向けた案内サイン提案事業	NPO流山まちなみ会	<b>【観光・地域活性化】</b> 流山本町及び利根運河を重点観光資源と捉え、過去の知見(散策会・シンポジウム等)や千葉大学・江戸川大学・東京理科大学の研究室と連携しつつ、また、地域の各種団体と協力しながら、利根運河の魅力を最大限に活用できる散策の実現に向けて、より具体的な「利根運河案内サイン」の提案事業を推進していく。 (継続事業:2年度目)	232,400	・流山本町・利根運河ツーリズム推進室 (観光資源のPRの視点から) ・都市計画課(景観づくりの視点から)
3	笑いヨガdeピンピンコロリ事業	笑いヨガ de PPK in 流山	<b>【福祉の増進】</b> 笑いヨガを用いて 1:介護予防・認知症予防・閉じこもり予防・ストレス解消になる場を提供する。 2:多世代交流をも促進し、不測の事態の際にスムーズに助け合える顔見知りの増加及び絆づくりを目指す。 (継続事業:2年度目)	127,420	・高齢者生きがい推進課 (高齢者の生きがい推進の視点から) ・介護支援課(介護予防の視点から)
4	流山市内におけるゴーヤを用いた食育の促進と、緑化マップによる視覚化する事業	流山ゴーヤカーテン普及促進協議会	<b>【環境保全】</b> 設立以来、市内のゴーヤカーテン普及活動を推進してきたが、近年成果を挙げている「食育」に注力し、①ゴーヤの地産地消、②市民の健康的な食生活支援を目指す。そのため(1)「ゴーヤ料理教室」を主催、(2)レシピ本の作成、(3)市内のゴーヤカーテンのマッピングを行い、食と環境のつながりを意識させる仕組みを構築していきたい。 (継続事業:3年度目)	242,400	・環境政策・放射能対策課 (緑のカーテン普及促進の視点から)
合 計				602,220	

平成28年度流山市民活動団体公益事業補助金事業別評価結果及び意見

No.	認定事業名
1	流山の公園、田畑や森で子ども達が冒険し健全に育つことを支援する事業
団体名	事業目的 子どもの健全育成（新規事業）
ヒミツキチ	子ども達が安全に自由に自分たちのアイディアとスタイルで遊び、発見や創造する喜びを味わえる場を創出する。また、子どもにとっての遊びの重要性や遊びに潜む危険の種類とその対処法について保護者向けワークショップを開催し、遊びへの理解を深め、遊びを通じて健やかに育つ環境づくりを家庭で実践してもらおう。

1 協働まちづくり提案調整会議委員評点及び各評価項目意見

評点平均3.3点（5点満点）

(1) 事業の達成度※当初計画のとおり事業を実施できたか

当初計画は、11回の遊び場作り、4回のセミナーであったが、実施結果は遊び場作り6回のみであった。流山市内での開催が当初計画の半分にとどまったとおり、全体としては事業計画どおりにはいかなかったが、個別の各イベントへの集客と顧客満足度の高さは計画どおりであった。当初目標への達成度は当該団体を感じているとおりだと思う。

(2) 事業収支の計画性※見込とおりの資金繰りだったか

当初の収入計画と相違しているが、子どもが参加する事業でありながら、補助金を使わず85万円収益の「黒字」になった。受益者負担の観点のもとしっかり参加費を徴収し、事業として自立できている点は大変すばらしい。

(3) 自立努力※収益努力と仲間づくりができたか

目標以上の収入と、無理のない支出で、事業を自立させていることは高く評価できる。

次々にイベントを企画、開催し、それに参加する中からサポーターが生まれた。

(4) 行政との連携とその度合※協働を見据えて事業を実施できたか

当該事業の成立に向けて、関係各部署との連携ができていたが、協働ならではの展開が低かった。

#### (5) 施策への推進・貢献度

子育てのまちに合致した素晴らしい事業であった。また、市が進める「都心に一番近い森のまち」にも合致していたように見えるため、市の施策に展開しなかったのは残念である。

#### (6) 課題に対する地域への波及効果・貢献度

まちなか、そして屋外に親子が安心して遊べる場所、満足度の高い手段を提供できたことは高く評価できる。この取り組みが新聞、テレビに取り上げられ、波及効果としては最大限に発揮されている。一方で、市内での展開性を得られなかった。

## 2 協働まちづくり提案調整会議委員総合意見

### (事業の観点から)

実施場所や季節を考慮しつつ、市内公園など空間から「遊び」という価値を創造・生み出す事業として、応援してくれる仲間づくりを行いながら質の高い事業が展開されていた。

子育て世代の転入も多い本市において、市民のニーズを敏感に受け止めて企画に展開しやり遂げる自立性、経営力は素晴らしく、特に集客等に係るPR力（SNSによる発信力）は高く、大変参考になるものであった。

実施計画については、中間報告会（9／3）時点では、セミナーを除いて順調に進んでいるものと思っていたが、10月以降のイベントが低調となった。

計画に基づき、事業を無理なく実施していくためには、さらなるメンバーや協力者の増員が必要であると同時に、無理のない計画をたてることも重要である。年間の事業計画立案よりも3ヶ月単位の事業計画立案が当該事業には適合しているのかもしれない。本補助金事業は年間単位の事業計画を申請の際に必要としているため、その部分で少し事業計画どおりの実行について困難もあったのだろうと思う。

一方で、当該団体の構成員は働き盛りの年代の方々に構成されており、本業を有しながら当該事業を行っている大変さは十分に理解できる。そのチャレンジを高く評価したい。

**流山市での展開を模索する：**多くの参加者を得ながら活動の拠点が市外にシフトしてしまうことは残念であるが、「流山市内にも活動の場は残す」との言葉に、今

後も期待したい。行政にとって大いに参考となる取り組みであり、若い世代が増進する本市においても継続して欲しい事業である。

(制度の観点から)

**行政と将来像を交換する**：公園などの利用について団体と市の連携が図られていた一方で、行政とヒミツキチとの協働による「将来像の実現」という点では、事業実施過程の課題の解決に向けた連携が不足していたため成果が低かった。双方が事業の実施を通じた将来像を交換できていなかったのではないだろうか。担当課がコミュニティ課であっただけに残念に思う。

(事業を推薦した委員として)

**「日々の遊ぶ」と向き合っていく**：活動に感じる課題は、イベント性と日常性の関係の構築、収益性と新しい公共としてのあり方の構築である。経営という観点における取組が、子どもたちの日々の「遊ぶ」という暮らしとどのように寄り添うことができるのか。今後は、子どもたちや親、地域社会とともに、地域に子どもが自らの発意で遊ぶことを大切にする新しい選択肢を構築して欲しい。

九州(宮崎県)えびの市では町おこしで、市や社会福祉協議会が中心となって、2泊3日の「教育、体験学習」をしている。こちらも参考に御紹介したい。

平成28年度流山市民活動団体公益事業補助金事業別評価結果及び意見

No.	認 定 事 業 名
2	流山本町・利根運河観光ツーリズムに向けた案内サイン提案事業
団体名	事業目的 観光・地域活性化（2年度目）
NPO流山 まちなみ会	流山本町及び利根運河を重点観光資源と捉え、過去の知見（散策会・シンポジウム等）や千葉大学・江戸川大学・東京理科大学の研究室と連携しつつ、また、地域の各種団体と協力しながら案内サイン提案事業を推進していく。

1 協働まちづくり提案調整会議委員評点及び各評価項目意見

評点平均4.7点（5点満点）

（1）事業の達成度※当初計画のとおり事業を実施できたか

計画立案を経験則に基づき、緻密に行っているため、計画どおり進捗し、計画どおりの達成度に達している。

（2）事業収支の計画性※見込とおりの資金繰りだったか

収入について、参加収入、広告料収入等予算以上の増収を達成され、努力された。支出も適正に行われ、計画に沿った執行となっている。

（3）自立努力※収益努力と仲間づくりができたか

収益努力は（2）のとおり、堅実である。また、団体がこれまで培ってきた幅広いネットワークの活用および新規団体との協力体制がしっかりと構築され実施できた。

（4）行政との連携とその度合※協働を見据えて事業を実施できたか

市内の関連各部署との連携により、市外の自治体にも働きかけを行いながら、情報を収集し、事業を実施し、試案を作成できたことは高く評価できる。一方で、都市計画課との連携の模索はどうだったか。

行政側から評価が低いのが気になる。

（5）施策への推進・貢献度

担当課の所見どおり、当該事業は今後のツーリズム施策を進めるにあたり、新たな案内サイン設置に必要な情報を集約し具体化へ向けた足がかりを構築している。貢献度は非常に高いと考える。

行政側から評価が低いのが気になる。

## (6) 課題に対する地域への波及効果・貢献度

1年1年実績を積んでいき、利根運河に関連する柏市、野田市、流山市などから市民活動して評価を受けている。案内サインの設置を進めるにあたっての具体的な課題を明確にしたこと、事業の具体化に必要な関係各部署が当該事業により一度結ばれたことも大きな成果である。今後は、提案書の評価が求められる。

## 2 協働まちづくり提案調整会議委員総合意見

### (事業の観点から)

行政（流山市、野田市、柏市、国交省など）、東京理科大、環境系市民団体（利根運河の生態系を守る会など）、一般市民との調整が必要な事業であった。各組織との協力体制作りで苦労があったと思うが、このテーマに対し市民目線で取り纏めたのは素晴らしい。流山市（まちづくり）の付加価値を付ける活力となっており、まちづくりを思う市民の熱さが伝わってくる事業である。

当該事業の成果のクオリティは、非常に高度な専門性や経験を有していなければ届かない次元に達している。事業計画が実に緻密であり、またその計画達成に向けて、事業の運営もプロフェッショナルである。大学と連携して専門的な知見を確保しながら、様々なアイデアをサインに取り込んでおり、高いレベルのデザイン性を備えた成果を得ることができた。

**事業工夫と成果を公開する：**各種団体との連携は、大学生の現場体験と事業における若い発想の展開となり、双方に刺激と創造をもたらす成果が感じられた。実現することのできた複数の大学間連携という財産は、これからの流山での新しい公共を創造する資源である。提案書は広く市民に公開して欲しい。

### (制度の観点から)

**新しい公共を追求する：**公益事業補助金認定事業ならびに協働による新しい公共の構築への取り組みとして範となるものである。大学をはじめ、協議会など団体との情報交換を通して、課題を発見し、情報を整理、集約したことにより大きな成果となった。この成果を踏まえて、事業の具現化に向けて市の関係各課で検討いただきたい。今後もサインにおける情報の更新など、取り組みの魅力を育てていくという観点において、さらに行政との連携による新しい公共のあり方を掘り下げて行って頂きたい。

(事業を推薦した委員として)

「将来像」の実現に向かう： 公益事業補助金認定事業として、行政ではなかなか実施できない事業でありながら、サイン提案に必要な条件や課題について国をはじめ、大学、関係団体や近隣住民と連携しながら、計画的に整理したことにより、高いデザイン性と利便性を兼ね備えた提案となり、地域の連携モデルとなった。

様々な大学や自治体などが当該事業に協力するのは、当該団体のこれまでの活動実績と熱意が確かなものであるからである。事業を着実に継続して実施していく重要性を改めて認識させられた。

今後の事業成果は、流山本町・利根運河ツーリズム推進課、都市計画課、そして関係各部署と継続して実現に向けて取り組んでほしい。指針における「将来像の実現」に繋げていただきたい。



平成28年度流山市民活動団体公益事業補助金事業別評価結果及び意見

No.	認定事業名
3	笑いヨガ de ピンピンコロリ事業
団体名	事業目的 福祉の増進（2年度目）
笑いヨガ de PPK in 流山	<p>笑いヨガを用いて</p> <p>1：介護予防・認知症予防・ストレス解消等になる場を提供する。</p> <p>2：多世代交流を促進し、不測の事態の際にスムーズに助け合える顔見知りの増加及び絆づくりを目指す。</p>

1 協働まちづくり提案調整会議委員評点及び各評価項目意見

評点平均3.8点（5点満点）

(1) 事業の達成度※当初計画のとおり事業を実施できたか

事業計画どおり、事業を実施されたが、集客率が前年度より落ち込んでいる。また、達成度については、やや集客面で苦戦されている。顧客満足度は高いと考えられる。

(2) 事業収支の計画性※見込とおりの資金繰りだったか

当初の計画から参加者が少なかった。収入に関しては事業収入5割ほどで予算に達していないが、全体としては支出を調整され、バランスをとっている。

(3) 自立努力※収益努力と仲間づくりができたか

信頼関係は確立されたが、市民活動員としてのリーダー不足。収益面および仲間づくりの両面で今後のさらなる努力に期待する。

(4) 行政との連携とその度合※協働を見据えて事業を実施できたか

担当課が当該事業の必要性を十分に理解し協力も行っているが、連携のポテンシャルをまだまだ感じる。

行政側から評価が低いのが気になる。

(5) 施策への推進・貢献度

介護予防や高齢者の生きがいの創出など、本市の施策には十分に合致しているが、事業の企画段階での協働が求められる。

行政側から評価が低いのが気になる。

(6) 課題に対する地域への波及効果・貢献度

参加人数の拡大策が必要。出前講座は効果あり。リピーターあるいは賛同者

との協働展開が欲しい。

## 2 協働まちづくり提案調整会議委員総合意見

(事業の観点から)

地域で高齢者が増加する中で、本事業が行う介護予防・認知症予防のための事業は必要性が高い。特に、当該事業の特徴として、ストレスホルモン測定により成果の見える化を図っていることは「百聞は一見にしかず」訴求力の高い取組であると高く評価できる。

**事業目的と将来像を確認する：**健康寿命に対する市民の潜在的意識をどうやって引き出すか、事業に結び付けるか、健康づくりとして定着する工夫が望まれる。集客に際してもその測定の成果をもっと強調しても良いのではないか。また、会場が各回違うことから、そのエリアの特徴に合わせた集客目標の設定や集客手段の選定を行ったほうがよいのでは。構成員の方の熱意と実行力が高く、結果として参加者の満足度を高めていることは素晴らしい。今後、出口さんと同じような動きをするリーダーの育成は不可欠であろう。今後は現在ある他の組織とのコラボをすることも有益と思われる。(出張講座などの男性の参加者を増やす工夫を)。パートナーの想定を行政ばかりでなく民間の他団体にもイメージを広げて頂きたい。本事業を通じて実現していきたい「将来像」をもう一度見つめなおしてほしい。

(制度の観点から)

**企画時から行政と協働する：**高齢化社会におけるメッセージ性のある取り組みとして工夫を重ねておられることはとても重要である。新しい公共サービスの担い手となり得るポテンシャルを感じる。所掌事務の本旨に立ち戻り行政側からの提案姿勢にも期待したい。担当課においても、介護予防・認知症予防として健康体操を行っているため、お互いの強みを生かしたフレキシブルな連携、協力により事業の発展を期待する。事業企画を立案する段階から行政との連携を図って頂きたい。事業を通じて達成していきたいことを交換して、行政の既存事業との連携ならびに協働による新しい事業イメージ等が見出されると思う。まだ市民と行政との協働のダイナミズムが発揮されていないため、今後に期待したい。

(事業を推薦した委員として)

**出前講座やデータ活用を工夫する：**当該団体は、当該事業を進めるにあたって課

題を十分に認識していることから、来年度に更なる向上を期待できる。

人の集まる所での開催（出前講座）も本事業に組み込んでも良いと思う。ストレスホルモンの測定データが集積されてきている。このデータを有効活用して欲しい。次年度も継続して欲しい。

平成28年度流山市民活動団体公益事業補助金事業別評価結果及び意見

No.	認定事業名
4	流山市内におけるゴーヤを用いた食育の促進と、緑化マップによる視覚化する事業
団体名	事業目的 環境保全（3年度目）
流山ゴーヤカーテン普及促進協議会	設立以来、市内のゴーヤカーテン普及活動を推進してきたが、近年成果を挙げている「食育」に注力し、①ゴーヤの地産地消、②市民の健康的な食生活支援を目指す。そのため（1）「ゴーヤ料理教室」を主催、（2）レシピ本の作成、（3）市内のゴーヤカーテンのマッピングを行い、食と環境のつながりを意識させる仕組みを構築していきたい。

1 協働まちづくり提案調整会議委員評点及び各評価項目意見

評点平均4.6点（5点満点）

（1）事業の達成度※当初計画のとおり事業を実施できたか

ほとんど計画どおり事業は遂行されている。また、レシピ冊子、マップも計画どおり作成され、配布されている。

（2）事業収支の計画性※見込とおりの資金繰りだったか

収支については、ほぼ計画どおりである。新たに広告収入の確保も行っている。

（3）自立努力※収益努力と仲間づくりができたか

団体力があり、すでに幅広い仲間作りや収益努力ができている。幅広いネットワークを活用し、事業を実施していることは高く評価できる。

（4）行政との連携とその度合※協働を見据えて事業を実施できたか

担当課も積極的に連携を行っているが、連携の意味と意義をさらに深めて欲しい

（5）施策への推進・貢献度

担当課の所見どおり、市施策への貢献度は高い。行政であればこそできることと事業を整理されたい。

## (6) 課題に対する地域への波及効果・貢献度

多数の自治会や公共施設等を巻き込み、ゴーヤカーテン普及に取り組んでいる。着実にゴーヤは普及しているが、「流山市のゴーヤ」を日本中が広めてほしい。今後は教育施設での取り組みの展開を期待したい。

## 2 協働まちづくり提案調整会議委員総合意見

### (事業の観点から)

当該事業は、市が推進する地球温暖化対策の具体策として、家庭で出来る二酸化炭素削減につながるゴーヤカーテン普及事業に取り組むだけでなく、育てたゴーヤを用いた食育の促進につなげるという非常にユニークな事業である。マップの作成・レシピ冊子・料理教室・ゴーヤカーテン交流など、ゴーヤを活用して「育てる楽しみ」「成長を見る楽しみ」「人と人とのつながり」「ゴーヤカーテンが地球温暖化防止」とトータルなまちづくりに寄与し、とても親しみやすい。着実な推進が素晴らしいと言える。

**多様な市民との協働を拓く：**多数の自治会や公共施設等を巻き込み、ゴーヤカーテン普及に取り組んでいる。着実にゴーヤは普及しているが、「流山市のゴーヤ」を日本中に広めてほしい。今後は教育施設での取り組みの展開を期待したい。多数の市民を巻き込み、専門家の知見も入ったレシピ冊子やマップなどの成果の見える化も行っており、そのクオリティも非常に高い。「涼、食、和」を3本柱に、事業を展開、自治会、学校、公共施設などを中心にゴーヤの普及に努力され、活動団体（組織）がしっかりと根付いていた。今後は「市民からの提案を受け止めていく企画など」も工夫して頂き、取り組む価値を広めていって頂きたい。

### (制度の観点から)

**流山の将来像をアピールする：**市の環境への取り組みについて市民ならではの創意工夫が加えられ、広がりがもたらされた点が素晴らしい。当該事業の成果をもって、涼・食・和による元気づくり提案する次の段階としての「将来像」をアピールして欲しい。楽しく継続していく価値を掘り下げることになることと想像される。本団体には、さらに価値を掘り下げて流山の将来像を継続して提起頂きたい。補助金事業を通して培われた事業実施のノウハウをもって、新たな事業展開を提案して欲しい。

(事業を推薦した委員として)

**多世代交流への展開を期待する**：大学生との協働事業となっていたが、役割分担からさらに一歩進めて、多世代が交流する仲間づくりにより事業の成長を期待したい。今後も、これまでの活動で獲得された幅広いネットワークとその経験を活かしたゴーヤカーテンの普及に期待する。